

宇都宮の環境（令和3年度 環境状況報告書）【概要版】

1 成果指標の状況について

成果指標は、環境基本計画の着実な実行や施策等による効果を確認するために、環境分野を代表する3つの指標を設定しています。前期計画最終年度である令和2年度においては、最新値を示し計画全体の進捗状況の確認を行いました。

成果指標	基準	(参考) 前年度値	最新値	目標
市民1人当たりの二酸化炭素排出量	3.2t-CO ₂ /年 (H25)	3.58t-CO ₂ /年 (H30)	3.27t-CO ₂ /年 (R1)	2.8t-CO ₂ /年 (R2)
市民1人1日当たりの 家庭系ごみ排出量（資源物以外）	552グラム (H26)	563グラム (R1)	600グラム (R2)	530グラム (R2)
自然環境の豊かさに関する愛着度	31.6%(H26)	30.1% (R1)	33.8% (R2)	35.0% (R2)

【市民一人当たりの二酸化炭素排出量】

➤ 前年度値から0.31t-CO₂減少（目標に対して前進）

「家庭における創エネ・蓄エネ導入支援制度の実施」などの省エネや低炭素化に向けた取組の推進により二酸化炭素排出量の抑制に、一定の成果を上げていますが、基準値からは増加している状況です。これは、エネルギーの利用効率が低い単身世帯や核家族世帯の増加や、自動車保有台数及び走行距離の増加などの影響によるものと考えられます。

【市民一人当たりの家庭系ごみ排出量】

➤ 前年度値から37グラム増加（目標に対して後退）

3Rの周知啓発強化や剪定枝等の拠点回収による資源化などに取り組むことにより、家庭系ごみ排出量の抑制に一定の成果を上げているものの、基準値から増加している状況です。これは、依然として焼却ごみの中にプラスチック製容器包装などの資源物や食品ロスが見受けられる状況にあることや、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためのテレワークや外出自粛等による、各家庭での生活時間増加に伴うものと考えられます。

【自然環境の豊かさに関する愛着度】

➤ 前年度値から3.7ポイント増（目標に対して前進）

自然とふれあう機会を確保、提供するとともに、様々な広報媒体を活用した情報発信などの実施により、自然環境の豊かさに関する愛着度の向上に向けて一定の成果を上げていますが、目標達成には至っていません。

2 宇都宮市の温室効果ガス排出量の推移

宇都宮市における 2019（令和元）年度の温室効果ガス総排出量は 389.1 万 t-CO₂ でした。

これは、2018（平成 30）年度と比べ 5.4%（22.4 万 t-CO₂）の減少となっています。また、基準年の 2013（平成 25）年度と比べると 6.9%（28.9 万 t-CO₂）の減少となりました。

2018（平成 30）年度と比べると 5.4%（22.4 万 t-CO₂）の減少した主な要因は、運輸部門が 15.2%（17.5 万 t-CO₂）減少したことが大きく影響したものと考えられます。

表 1 宇都宮市の温室効果ガス排出量の推移

部門	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
産業	110.9	110.8	108.7	109.3	107.5	109.2	106.3
民生（家庭）	78.3	73.5	71.8	75.6	77.7	69.0	68.8
民生（業務）	96.2	92.0	86.8	86.9	85.3	83.3	80.9
運輸	104.1	105.4	105.7	105.7	121.5	114.8	97.3
廃棄物	6.5	6.1	5.3	5.5	5.9	6.3	6.1
その他ガス	22.0	23.8	25.2	27.2	27.9	28.8	29.7
合計	418.0	411.6	403.5	410.2	425.8	411.5	389.1

3 分野別施策の進捗状況について

分野別の基本施策の達成状況について、構成事業については全て計画どおりに実施されており、多くの基本施策の評価は「順調」または「おおむね順調」となりました。一方で、一部の基本施策について「やや遅れ」の評価となったことから、その要因について分析し、適切に対応していく必要があります。

【分野別評価】各分野の基本施策及び構成事業についての評価

分野	基本施策				構成事業の進捗状況
	順調	概ね順調	やや遅れ	評価不能	
地球環境	4	3	1	0	一部を除き計画どおり※
廃棄物	1	4	2	0	全て計画どおり
自然環境	2	4	1	1	全て計画どおり
生活環境	2	5	2	0	全て計画どおり
人づくり	0	1	1	4	全て計画どおり

※宇都宮市行政評価の評価基準に基づき評価

※ 2 構成事業「LRTの整備」及び「蓄電機能を生かした電気自動車等の普及促進」において、当初の計画より遅れが生じている。

【分野 1 地球環境】（基本施策数 8：順調 4，概ね順調 3，やや遅れ 1）

基本施策 施策指標	H26 末時点 (基準年)	R1 末時点 (実績値)	R2 末時点 (実績値)	R2 目標値 (目標値)	R2 評価 (達成率)
1-1-1 家庭における省エネ・低炭素化の促進 【指標】一世帯当たりの CO ₂ 排出量	7.5t-CO ₂	7.97t-CO ₂ (H30 時点)	7.23t-CO ₂ (R1 時点)	6.6t-CO ₂ (R1 時点)	B (91%)
1-1-2 事業所における省エネ・低炭素化の促進 【指標】省エネセミナーに参加した事業者数	83 事業者	265 事業者	265 事業者	250 事業者	A
1-1-3 市役所における省エネ・低炭素化の促進 【指標】市有施設における CO ₂ 排出量	111,610 t-CO ₂	91,874t-CO ₂ (R1 時点)	82,784t-CO ₂ (R1 時点)	94,700 t-CO ₂	A
1-2-1 創エネルギー・蓄エネルギーの利活用の推進 【指標】太陽光発電設備導入世帯数	12,710 世帯	17,957 世帯	18,902 世帯	19,000 世帯	B (99%)
1-2-2 地域のポテンシャルを生かした新たなエネルギー等の利活用の推進 【指標】冷熱エネルギーを活用した事業への参入者数	0 事業者	4 事業者	6 事業者	3 事業者	A
1-3-1 環境負荷の少ない都市整備の推進 【指標】特定規模電気事業者 (PPS) 等を活用した市有施設数	104 施設	109 施設	109 施設	110 施設	B (99%)
1-3-2 エコで利用しやすい交通体系の構築 【指標】公共交通の年間利用者数	32,849 千人	30,390 千人	22,114 千人	35,528 千人	C (62%)
1-3-3 気候変動への「適応」に関する普及啓発 【指標】「適応」をテーマとした出前講座等による啓発回数	—	9 回	11 回	10 回	A

【C評価のなった施策】

基本施策 施策指標	H26 (基準値)	H27 (参考値) (実績値)	H28 (参考値) (実績値)	H29 (参考値) (実績値)	H30 (参考値) (実績値)	R1 (参考値) (実績値)	R1 (参考値) (実績値)
1-3-2 エコで利用しやすい交通体系の構築 【指標】公共交通の年間利用者数	33,530	—	38,620	40,589	42,000	34,719	35,528
		32,643	33,530	33,510	33,910	30,390	22,114
評価分析	新型コロナウイルスの影響により、利用者の減少が大きいことから総合評価は「やや遅れ」となった。引き続き、感染症対策により利用者の不安の払拭を図るとともに、公共交通の利便性の向上に向けた取組や公共交通利用促進策を実施していく必要がある。						

【地球環境分野の課題】

再生可能エネルギーの普及啓発など、構成事業の着実な推進により、一部の基本施策を除き、多くの施策の評価は「順調」となりました。

「公共交通の年間利用者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う利用者の大幅に減少により目標達成には至らなかったと考えられます。

【分野 2 廃棄物】（基本施策数 7：順調 1，概ね順調 4，やや遅れ 2）

基本施策 施策指標	H26 末時点 (基準年)	R1 末時点 (実績値)	R2 末時点 (実績値)	R2 目標値 (目標値)	R2 評価 (達成率)
2-1-1 発生抑制の推進 【指標】ごみ総排出量	184,252 t	180,861 t	182,565 t	180,600 t	B (98%)
2-1-2 再使用の推進 【指標】布類分別協力率	16.7%	49.9%	52.3%	20.0%	A
2-2-1 ごみの資源化の推進 【指標】廃棄物系バイオマスの 資源化量	113 t	426 t	817 t	1,500 t	C (54.5%)
2-2-2 公共施設における資源化の推進 【指標】脱水汚泥の再資源化率	24.6%	23.7%	21.3%	26.1%	B (82%)
2-2-3 地域循環の新たな創出に向けた施策の 推進 【指標】リサイクル率	18.2%	14.9%	15.0%	22.9%	C (65.5%)
2-3-1 適正な処理体制の整備・推進 【指標】多量排出事業所に対する指導 割合	50%	33.3%	23.6%	25%	B (94%)
2-3-2 不法投棄の未然防止，拡大防止 【指標】不法投棄発生件数	420 件	266 件	328 件	250 件	B (76%)

【C評価のなった施策】

基本施策 施策指標	H26 (基準値)	H27 (参考値) (実績値)	H28 (参考値) (実績値)	H29 (参考値) (実績値)	H30 (参考値) (実績値)	R1 (参考値) (実績値)	R2 (参考値) (実績値)
2-2-1 ごみの資源化の推進 【指標】廃棄物系バイオマスの 資源化量	113	-	300	600	900	1,200	1500
		126	176	358	374	426	817
評価分析	R2年度から開始した 2 清掃工場における剪定枝の拠点回収により資源化量は前年度の 2 倍となったものの、目標達成には至らず、総合評価は「やや遅れ」となった。						
2-2-3 地域循環の新たな創出に向け た施策の推進 【指標】リサイクル率	18.2	-	19.1	20.0	20.9	21.8	22.9
		17.9	17.3	16.5	15.4	14.9	15.0
評価分析	店頭回収などによりリサイクルの取組は進展しており市民・事業者のリサイクル行動の促進は図られていると推測されるが、それらの資源化量は指標に反映されないため、総合評価としては「やや遅れ」となった。						

【廃棄物分野の課題】

生ごみの減量化・資源化に向けた普及啓発や、適正処理に向けた意識の醸成、排出事業者等に対する指導など、構成事業の着実な推進により、一部の基本施策を除き、「概ね順調」以上となりました。「やや遅れ」となった「廃棄物系バイオマスの資源化量」については、剪定枝の拠点回収により資源化量は前年度の 2 倍となったものの、資源化量の効果拡大が高い事業系生ごみの資源化が進んでいないことや、「リサイクル率」については、店頭回収などによりリサイクルの取組は進展していますが、市施設等の資源化量と集団回収のみで数値を取っているため目標達成には至らなかったと考えられます。

【分野3 自然環境】（基本施策数8：順調2，概ね順調4，やや遅れ1，評価不能1）

基本施策 施策指標	H26 末時点 (基準年)	R1 末時点 (実績値)	R2 末時点 (実績値)	R2 目標値 (目標値)	R2 評価 (達成率)
3-1-1 生物多様性保全に関する意識の醸成 【指標】生物多様性保全の意識を持った自然ふれあい活動の体験者数	1,997 人	10,809 人	1,923 人	9,600 人	評価不能 ※コロナ 影響
3-1-2 生きものとその生息・生育環境の保全の推進 【指標】外来種の影響に関する認知度	—	67.1%	64.8%	80%	B (81%)
3-2-1 農地や森林の多面的機能の維持向上 【指標】市内農地における環境保全活動カバー率	29.4%	39.3%	38.1%	60%	C (63.5%)
3-2-2 都市の緑の保全と創出 【指標】市民一人当たりの都市公園面積	10.66 m ² /人	10.8 m ² /人	11.35 m ² /人	12.32 m ² /人	B (92%)
3-2-3 水資源の確保 【指標】雨水貯留施設等の設置費補助件数	311 基	865 基	1,129 基	1,360 基	B (83%)
3-2-4 河川環境の保全と創出 【指標】自然生態系などに配慮して整備している河川の整備率	59.6%	62.4%	62.5%	62.3%	A
3-3-1 土地機能の維持や活用の推進 【指標】荒廃農地面積（農用地区域内）	53.2ha (H24 時点)	42.0ha	44.0ha	40.0ha	A
3-3-2 良好な景観の保全・創出 【指標】景観形成重点地区等の指定数	6 地区	7 地区	8 地区	9 地区	B (88%)

【C評価のなった指標】

基本施策 施策指標	H26 (基準値)	H27 (参考値) (実績値)	H28 (参考値) (実績値)	H29 (参考値) (実績値)	H30 (参考値) (実績値)	R1 (参考値) (実績値)	R2 (参考値) (実績値)
3-2-1 農地や森林の多面的機能の維持向上 【指標】市内農地における環境保全活動カバー率	29.4	—	39	44.2	49.5	54.7	60
		37.8	40.7	40.3	40.5	39.3	38.1
評価分析	市内農地における環境保全活動カバー率を維持・向上していくため、組織における事務負担の軽減や活動の継続・新規立ち上げ、活動エリア拡大に取り組む必要がある。						

【自然環境分野の課題】

生物多様性保全の情報共有や地産地消の推進など、構成事業の着実な推進により、一部の基本施策を除き、「概ね順調」以上となりました。

「やや遅れ」となった「市内農地における環境保全活動カバー率」については、環境保全活動を行う組織人員の減少（高齢化，後継者不足）によりカバー率が低下していることが要因と考えられます。

【分野 4 生活環境】（基本施策数 9：順調 2，概ね順調 5，やや遅れ 2）

基本施策 施策指標	H26 末時点 (基準年)	R1 末時点 (実績値)	R2 末時点 (実績値)	R2 目標値 (目標値)	R2 評価 (達成率)
4-1-1 監視体制の整備と充実 【指標】光化学オキシダント*の 環境基準*達成率	89.9%	92.7%	93.6%	当該年度の 全国平均以上	B (-)
4-1-2 発生源対策の充実 【指標】工場・事業場における 排出ガス基準超過件数	1 件	1 件	0 件	0 件	A
4-1-3 自動車排出ガス対策の充実 【指標】電気自動車補助件数	—	5 件	7 件	450 件	C (1%)
4-2-1 監視体制の整備と充実 【指標】河川水の生物化学的酸素要求 量に係る基準達成率	94.4%	94.4%	88.9%	94.4%	B (94%)
4-2-2 発生源対策の充実 【指標】工場・事業場における 排出基準超過件数	1 件	5 件	3 件	0 件	C (-)
4-2-3 生活排水対策の充実 【指標】生活排水処理人口普及率	96.9%	98.7%	99.0%	98.9%	B (99%)
4-3-1 監視体制の整備と自動車騒音対策の充 実【指標】自動車騒音に係る環境基準達 成率	96.3%	93.8%	93.1%	当該年度の 全国平均以上	B (注)
4-3-2 近隣公害等への対応 【指標】公害等に係る苦情処理件数	59 件	58 件	73 件	59	B (81%)
4-3-3 化学物質への対応 【指標】工場・事業場のダイオキシン類 基準超過件数	0 件	0 件	0 件	0 件	A

【C評価のなった施策】

※注 国による当該年度の数値が公表されていないため評価不能

基本施策 施策指標	H26 (基準値)	H27 (参考値) (実績値)	H28 (参考値) (実績値)	H29 (参考値) (実績値)	H30 (参考値) (実績値)	R1 (参考値) (実績値)	R2 (参考値) (実績値)
4-1-3 自動車排出ガス対策の充実 【指標】電気自動車補助件数	—	—	90 2	180 3	270 3	360 5	450 7
評価分析	給電性能を備えた車種が限られていることや、市民における、電気自動車の蓄電池としての認識不足により総合評価が「やや遅れ」となった。						
4-2-2 発生源対策の充実【指標】工場・事業 場における排出基準超過件数	1	— 3	0 4	0 4	0 3	0 5	0 3
評価分析	R2年度は標値0に対して3件の排出基準超過があったため総合評価は「やや遅れ」となったが、速やかな行政指導により改善済みである。						

【生活環境分野の課題】

法令に基づく工場や事業場への立入検査や指導など、構成事業の着実な推進により、一部の基本施策を除き、評価は「順調」「概ね順調」となりました。「やや遅れ」となった「電気自動車補助件数」については、補助要件である給電性能を備えた車種が限られていることや、市民における、電気自動車の蓄電池としての認識不足が要因して考えられます。また「工場・事業場における排出基準超過件数」等については、引き続き、立入検査や指導などを通じて、法令遵守に対する事業者の理解を一層促進する必要があります。

【分野5 人づくり】(基本施策数6：概ね順調1， やや遅れ1， 評価不能4)

基本施策 施策指標	H26 末時点 (基準年)	R1 末時点 (実績値)	R2 末時点 (実績値)	R2 目標値 (目標値)	R2 評価 (達成率)
5-1-1 市民総ぐるみによるもったいない運動の推進 【指標】もったいない運動の普及啓発事業に 参加した人数	30,000 人	34,456 人	15,652 人	40,000 人	評価不能 ※コロナ 影響
5-1-2 もったいない運動を取り入れたイベントの 開催【指標】もったいない運動を取り入れた イベントの割合	100%	100%	—	100%	評価不能 ※コロナ 影響
5-2-1 環境学習の場と機会の提供 【指標】環境学習センター開催講座等への 参加者数	12,724 人	9,524 人	3,571 人	13,500 人	評価不能 ※コロナ 影響
5-2-2 地域における環境保全活動を担う人材の育成 【指標】「こどもエコクラブ」会員数	1,872 人	1,699 人	1,599 人	3,000 人	C (53%)
5-3-1 各主体における環境配慮行動の推進 【指標】みやエコファミリー認定制度認定 家庭数	2,691 世帯	4,638 世帯	4,700 世帯	5,000 世帯	B (94%)
5-3-2 多様な活動主体間の連携促進 【指標】環境学習センターの利用件数	893 件	877 件	615 件	970 件	評価不能 ※コロナ 影響

【C評価のなった施策】

基本施策 施策指標	H26 (基準値)	H27 (参考値) (実績値)	H28 (参考値) (実績値)	H29 (参考値) (実績値)	H30 (参考値) (実績値)	R1 (参考値) (実績値)	R2 (参考値) (実績値)
5-2-2 地域における環境保全活動を担 う人材の育成 【指標】「こどもエコクラブ」会 員数	1,872	—	2,097	2,322	2,548	2,772	3,000
		2,136	1,838	1,804	1,775	1,699	1,599
評価分析	宇都宮地域の構成員は全国で10番目となるなど一定の成果は得られている が、目標の達成に向けた事業の見直し等が必要である。						

【人づくり分野の課題】

新型コロナウイルス感染症の感染予防でイベントや講座等の開催を自粛した影響を受け、多くの指標において、「評価不能」となりました。「こどもエコクラブ会員数」については、感染症対策を実施したうえで「こどもエコクラブ」の活動を継続し、一定の成果は得られていますが、目標達成には至りませんでした。